



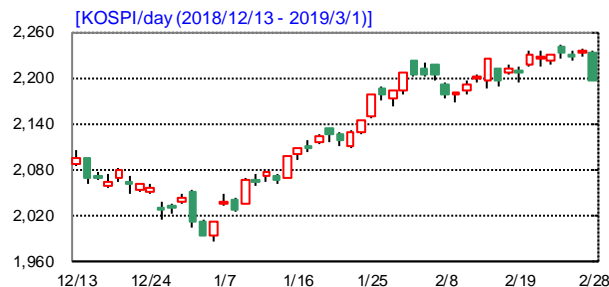
【韓国】 総合指数は週間で1.6%と3週ぶり反落、今週は2200ポイントで値固めか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.6%安と3週ぶりに反落。3月1日が休場のため4日間の立ち会いだった。週明け2月25日から27日までは前週終値付近の狭いレンジでのみ合いに終始。27-28日にベトナムで開かれた米朝首脳会談が事実上の物別れに終わり、28日には失望売りが相場を大きく押し下げた。

28日終値は心理的節目の2200ポイントを割り込み、12日以来の安値となった。連休前だけに持ち高調整の売りも出たとみられる。今週は2200ポイント付近で値固めか。中国が国会に当たる全国人民代表大会（全人代）を開くだけに米中貿易協議の進展を期待しにくく、様子見ムードが強まりそうだ。全人代で新たな景気下支え策などが出れば関連銘柄に買いが入る半面、対策が小粒にとどまるならかえって売り材料視されるだろう。

▼指数チャート



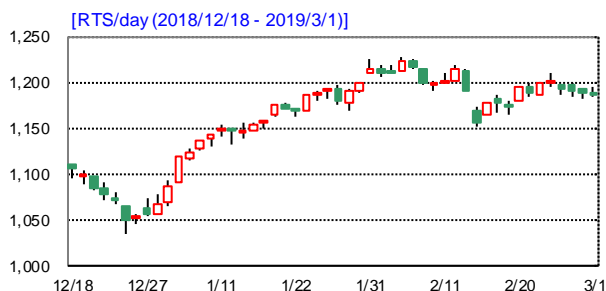
【ロシア】 RTS 指数は0.9%安と反落、今週は米欧貿易問題などで神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は0.9%安と反落。欧米の貿易摩擦懸念の高まりや物別れに終わった米朝首脳会談、米中通商協議の難航観測に加え、原油安・ルーブル安も投資家心理の悪化につながった。週明け25日は、3月中に米中首脳会談を開き、通商問題を決着させるとの期待が高まったことで上昇して

スタート。ただ、その後は米中通商問題の解決後に米国が欧州に再び圧力をかけるとの観測が広がり、欧米貿易摩擦への懸念が再燃した。米朝首脳会談の決裂やインド・パキスタン紛争、米中通商協議の難航見通しも嫌気されたほか、原油相場やルーブルの下落も売り材料。個別ではノヴァテク、タトネフチなどの資源・エネルギー株の下落が指数の重しとなった。今週は米欧貿易問題や米中通商協議の動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は0.9%安と3週ぶり反落、今週は高値警戒感で売り優勢か

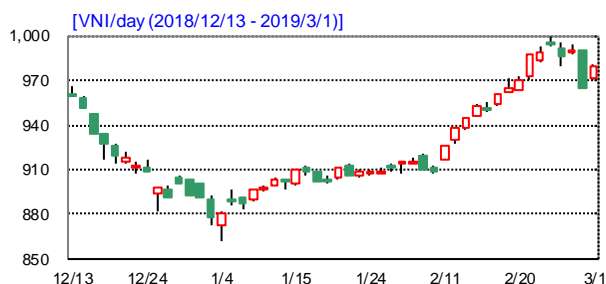
勢か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.9%安と3週ぶりに反落。米中貿易摩擦懸念の高まりや物別れに終わった米朝首脳会談などを背景に投資家心理が悪化した。前週までの大幅な続伸を受けて利益確定売りの勢いも強まり、一転して軟調な展開となった。

週初は、トランプ米大統領が中国製品に対する制裁関税引き上げ延期を表明したのを受けて終値ベースで10月9日以来、約4カ月半ぶりの高値を付けた。ただ、その後は米国が中国の貿易摩擦の解消にはまだ時間がかかるとの警告を出したほか、米国と北朝鮮の首脳会談が合意に至らなかったことを受けて資金が流出。28日には金融株や消費関連株が下落を主導し、指数は前日比2.5%安と約4カ月半ぶりの大幅な下落率となった。今週は高値警戒感を背景に引き続き売り優勢の展開か。

▼指数チャート

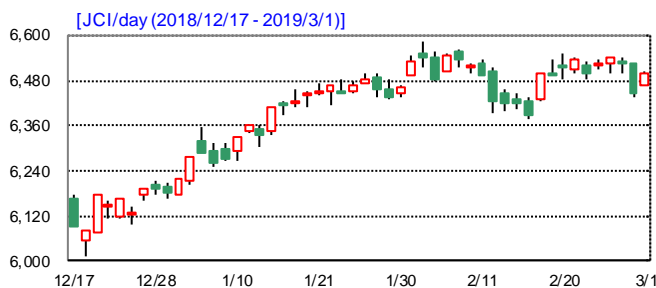


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.02%安、インフレ圧力低下で週末に反発

ジャカルタ総合指数は週間で 0.02%安とほぼ横ばい。2 月月間では 1.4%安だった。先週は週末の反発が下落幅を縮めた。25 日は米中貿易協議の期限延長に対する期待が広がり反発。26 日も続伸したが、27 日に反落すると、28 日は米朝首脳会談の決裂や米中通商協議に関するライトハイザー米通商代表部代表の慎重姿勢が嫌気され、指数は前日比 1.3%安と続落した。一方、1 日は 2 月の CPI 上昇率が前年同月比 2.6%と 09 年 11 月以来の低い伸びとなり、インフレ圧力の緩和が好感されて前日比 0.9%高と反発した。今週は国内の経済イベントが少なく外部要因に左右される展開か。7 日は釈迦暦新年のため休場。

▼指数チャート

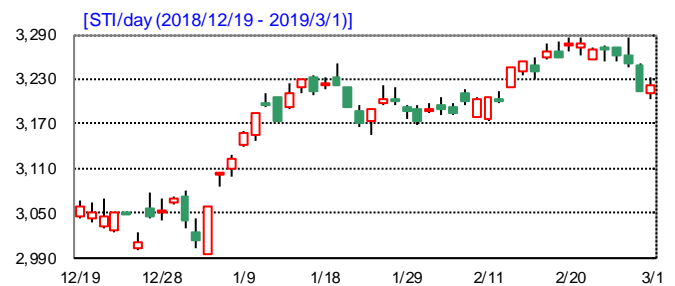


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.5%安、今週は 2 月の製造業 PMI が焦点

スレーツタイムズ指数は週間で 1.5%安と 4 週ぶりに反落。2 月月間では 0.7%高。先週は買い材料に乏しく軟調に推移した。週初の 25 日は前週末からほぼ横ばいでスタートしたものの、26 日は 1 月の鉱工業生産が前年同月比 3.1%減と 17 年 12 月以来のマイナスだったことが嫌気されて反落。27 日も続落すると、28 日は米国と中国、北朝鮮の外交問題に加え、中国の 2 月の公式製造業 PMI が 49.2 と小幅ながら前月を下回った影響で指数は前日比 1.1%下落した。1 日は 4 日ぶりに反発して引けている。今週は 4 日の取引終了後に 2 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 50.7 ポイントを上回るかが焦点。

▼指数チャート

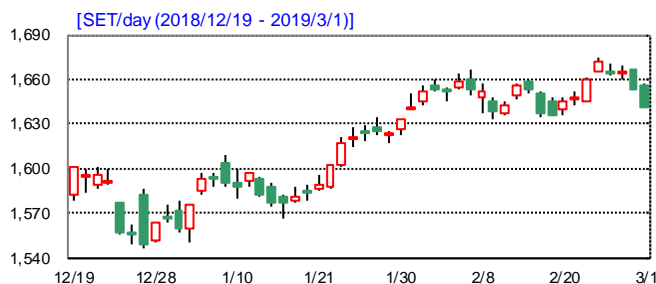


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.1%安、週初に 3 カ月ぶりの高値を更新するも後半の下落が痛手

SET 指数は週間で 1.1%安と反落。2 月月間では 0.7%高。先週は後半の下落が指数を押し下げた。週初の 25 日は前週からの勢いを引き継ぎ、終値で約 3 カ月ぶりの高値を更新。一方、26 日は 1 月の鉱工業生産が市場予想から下振れした影響に加え、トランプ米大統領が前日にツイッターの投稿で OPEC に対し、原油価格の過度な上昇をけん制したことを受けてエネルギー株が売られ、指数は 5 営業日ぶりに反落した。その後、27 日は小幅に反発したものの、週後半は買い材料に乏しく、続落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、中国の 2 月の貿易統計といった外部要因が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

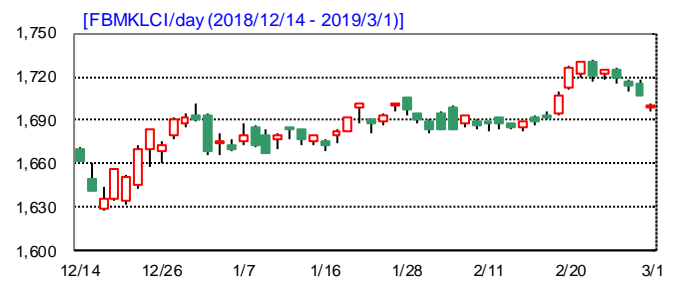


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.2%安、今週は 1 月貿易統計に対する市場の反応が焦点

クアラルンプール総合指数は週間で 1.2%安と 4 週ぶりに反落。2 月月間では 1.4%高。先週は週初に反発したが、その後はじりじりと下値を広げた。25 日は中国株の上昇に連動して上昇したが、26 日は原油価格の下落が嫌気されて反落。27 日にインドとパキスタンの軍事対立の激化を受けて続落すると、週末まで下げ止まらず、4 日続落で取引を終えた。今週は 4 日発表の 1 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点となるほか、5 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。米中貿易摩擦の交渉期限が延長され、合意への期待感の高まりを受けて前週末の NY ダウが 4 日ぶりに反発したことは好材料。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。